

多目的室

元は台所だった場所
です。この部屋でも食器
棚を建て付けにする
地震対策が
とられています。



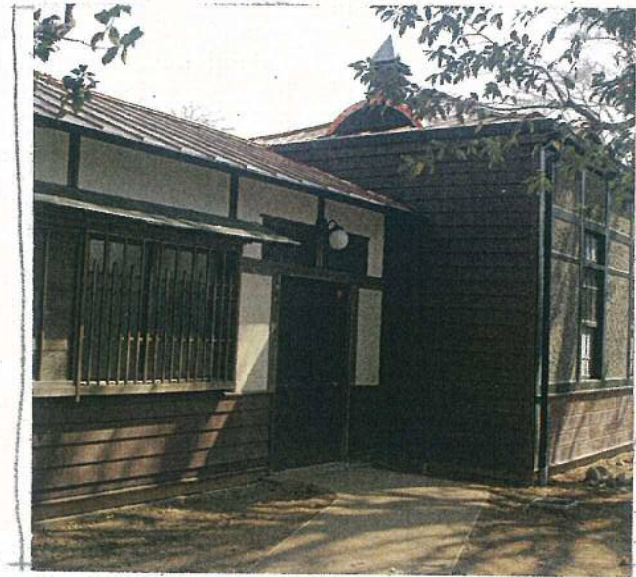
地震重視にしたため、
安全になっている。

書斎

母屋完成後まもなく増築された
別棟の部屋です。



本読みもできる。



まとめ

広太郎さんは、いかになる人物
だということが、分かりました。
それに、昔でも土地震に、重視
を付けられるということも、
すごいことだと思えます。

歴史の地

杉村林正人館
記念館

見出し 杉村楚人冠記念館について、
記念館の建物は、杉村楚人冠が我孫子に定住する時に建てた母屋を利用しているようです。

杉村楚人冠の伝説

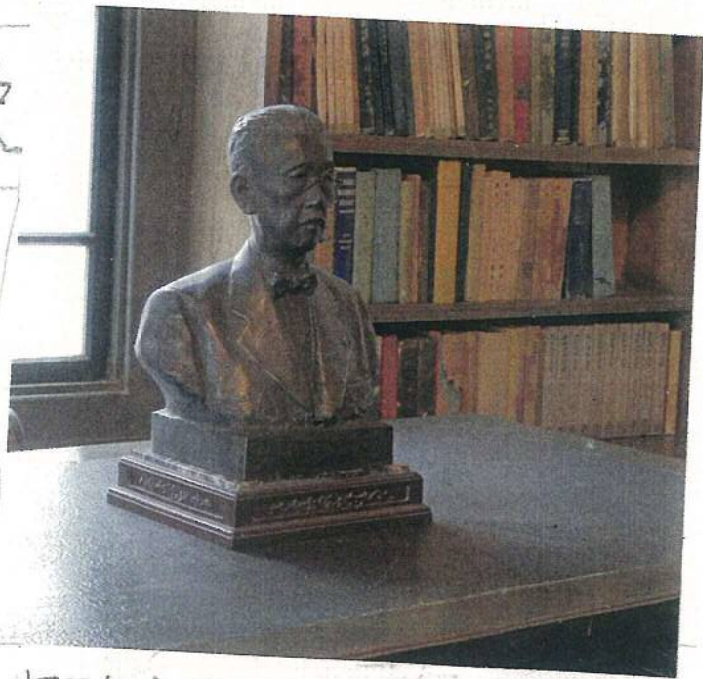
杉村楚人冠(本名 広太郎)は、明治末某月から昭和前某月に東京車月日新聞で活躍したジャーナリストです。調査部や記事審査部の導入、宿刷り版の発行、日刊写真新聞「アサヒグラフ」の企画、大学の新聞学科での講義など、日本への試みを行いました。また、読みやすい文章とユーモアをとり、独特の皮肉やコラムは、当時人気を博しただけでなく戦後の文筆家にも、景仰を承えてきました。



自宅前をサイクリングする楚人冠

楚人冠の銅像

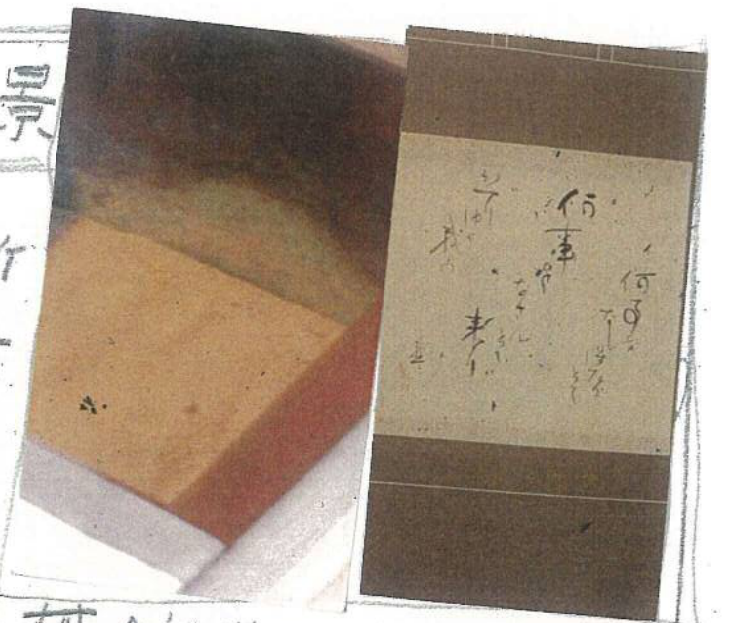
右の糸会の銅像はサロン室という所にあります。サロン室は多くの記念品が飾られている所です。ちなみに、この銅像は、広太郎さんの銅像です。流石ですね。



↑ 広太郎さんの銅像 ↑

過去に戻ったような風景

ここは和室といい、茶室としても使える所です。他には、たたみだ、たり、ゆがんだ窓などもあり、あたりにします。



茶会がてきめるような火戸があたり、少し矢張りような俳句などがあります。

展示室 1

夫人が主に使っていた部屋を利用してしているそうです。



↑ 利用部屋

展示室 2

もとは茶の間として使われていた部屋です。縁側りは吹きさらしの濡れ縁だったものが、のちにに改築されたものです。



↑ 色も、まるで少し茶色いように改築されている。